

熱部門グループ

行政の取り組みとしては、熱分野においては東京都が力を入れている。様々な補助事業を実施しており、熱分野に期待をしている方々も多い。まず、話に出たのは熱エネルギーというより、災害時の緊急対策についての話が出された。

ごみ焼却場の発電についての事例発表があった。ごみ処理場は迷惑施設という概念があり、地域の方々は良い思いをされていない。そこで、施設から出た廃熱を安価で地域に供給するという熱の有効性をもっと考えていくべきという話があった。これは、食品などを扱っている工場等へと繋がる話になる。食品加工の際に使用するエネルギーの消費量は莫大な量だと聞いている。

地中熱については、初期費用の低減と償却年数についての課題にあげられ、住宅の地中熱設置例などを挙げていただいた。とても快適なのだが、最終的にユーザーが判断するのは償却年数だと言う。10年ぐらいになると普及しやすいとの事であった。

償却年数の観点から言うのであれば、省エネということも意識しなければならない。窓のサッシなどからは一番熱が逃げるので、省エネについての討議も必要という結論になった。

あと、熱を電気に変換するより、熱は直接使う方が良いという意見も出た。